

## 滋賀・鴨田遺跡

かもた



(長 浜)

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| 所在地           | 滋賀県長浜市大辰巳町           |
| 調査期間          | 一九九三年(平5)一〇月～一九九四年三月 |
| 発掘機関          | 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会 |
| 調査担当者         | 吉田秀則・重田 勉            |
| 遺跡の種類         | 集落跡                  |
| 遺跡の年代         | 一四世紀～一六世紀            |
| 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                      |

鴨田遺跡は、姉川左岸に広がる長浜平野の中央部に位置しており、県内有数の弥生時代の拠点集落として知られている。長浜市内における中世の遺跡は、現在の

集落と重複すると考えられ

てきた。その理由は、当地  
が姉川の氾濫原にあるため  
で、過去の発掘調査やボーリング調査でも多数の旧河

道などが確認されている。  
このような背景がありながら、今回、比較的広範囲で  
遺構として注目されるのは地割の境界を示す区画溝で、この溝の位置は圃場整備前の水田の旧畦畔とほぼ合致する。区画内の遺構もそれぞれ切り合いや密度も違い、当時の集落内の様相を色濃く残している。

遺物の出土は少ないが、青磁・土師皿・摺鉢などがある。中でも土師皿は溝と柱穴内からはほとんど完形で出土しており、当時の地鎮祭などの様子を垣間見ることができる。

今回出土した木簡は、「西国三十三所観音巡礼」に用いられた巡

中世の集落跡が発見されたのは非常に珍しく、今後長浜平野における中世の景観復原の重要な資料となるであろう。

今回確認された集落跡は、周辺に現存する集落の跡地と考えられる。つまり集落の移動した痕跡と考えられるのである。これについては『近江国坂田郡志』に「古へは高鍋と稱せしを、天正年間異の方位にある地に移住し、辰巳と改め、後、更に大辰巳と改む。」とあるのが参照される。現在、大辰巳町の集落は鴨田遺跡の東方に位置している。一方、鴨田遺跡の西方付近を、つい最近まで周辺の人々は「たかなべ（高鍋）」と呼んでいた。現在の大辰巳町の西南、つまり異の方位の逆に位置するのが当調査地であり、「高鍋」なのである。そしてその「高鍋」の伝承地から、室町期の集落跡が検出されたことによって、集落が移動したことが実証されたことになる。

札札で、区画溝から一括して出土した。本来、巡礼札は一定期間を経るとまとめて焼却されるものであるが、今回は投棄されたような状態で出土しており、焼却された痕跡も認められなかった。

今回の巡礼札の出土により、当時当地に何らかの寺院関連施設が存在した可能性が考えられるに至った。その存在の裏付けとなるような小字名や石碑なども残っており、当地は西国三十三所巡礼に関係する、札所間の中継地のような場所であったのかもしれない。

#### 8 木簡の釈文・内容

- (3) 「<sup>宝</sup>卅三所巡礼聖<sup>一</sup>」  
宝徳四年四月  
(186)×40×2 019
- (4) 「<sup>宝</sup>卅三所巡礼同行二人  
江州高嶋郡□津東□□□  
宝徳四年五月 日妙善<sup>〔禪ガ〕</sup>  
」 182×64×3 011
- (5) 「<sup>宝</sup>德<sup>五</sup>月十五日  
順礼聖同行三人<sup>〔常春カ〕</sup>  
□国□□□□□(花押)  
」 177×59×2 011

墨書の内容は主に、「西国三十三所巡礼」、「僧の位」、「出身地」、「年紀」など、中には巡礼者の名前が記されているものもある。計約五〇点出土したが、今回は墨書の確認できる一九点を紹介する。

- (1) 「<sup>卅三</sup>所<sup>二</sup>遭禮同道數四人  
寶徳四年三月十一日」  
宝徳四年三月十一日 271×60×1 011
- (2) 「  
正卅三所巡礼三人  
寶徳四年」  
正卅三所巡礼三人 200×46×3 011
- (3) 「<sup>宝</sup>卅三所<sup>二</sup>順禮一人<sup>〔大界カ〕</sup>  
南無□□觀世音  
江州□□□(花押)  
□鈴鹿郡上田より  
」 177×59×2 011
- (4) 「<sup>宝</sup>卅三所順禮聖同行四人  
□□□□□□□  
」 (169)×46×2 019
- (5) 「<sup>宝</sup>卅三所順禮一人<sup>〔大界カ〕</sup>  
こうのくに□□□  
」 177×59×2 011



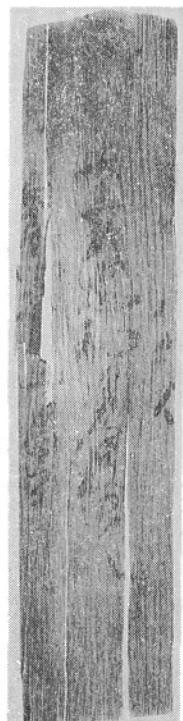
(6)



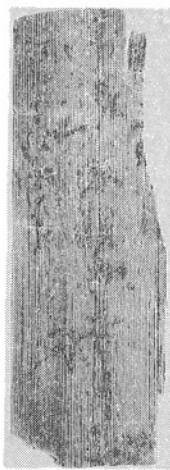
(3)



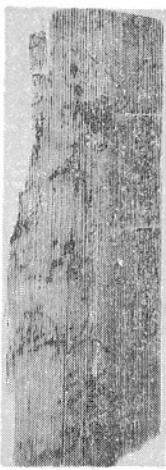
(2)



(1) 表

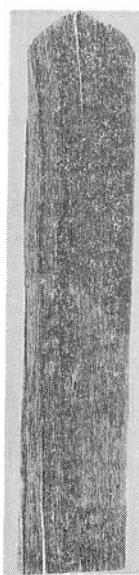


(5)

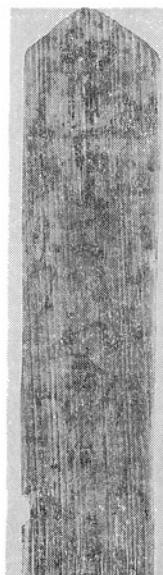


(4)

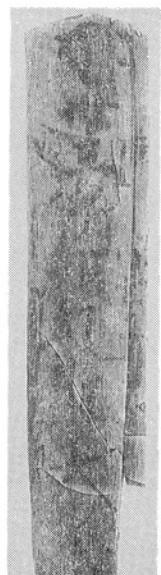
1993年出土の木簡



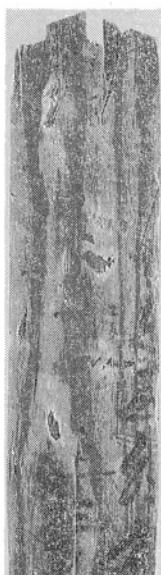
(9)



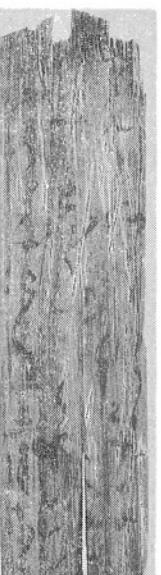
(16)



(17)



(18)



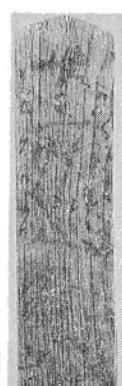
(19)



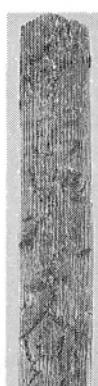
(14)



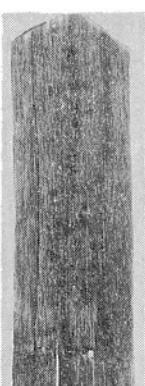
(10)



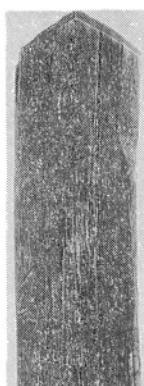
(13)



(15)



(7)



(12)

- (8) 「 みのゝ国あかさかの住人  
卅三所順礼聖同行三人  
宝徳四年三月廿五日 」 203×57×3 011\*
- (9) 「 大□□  
卅三所巡礼只三人石□〔藤々〕」 215×41×3 011
- (10) 「 播州三木郡吉河庄住人  
三拾参所順礼俗一人  
宝徳四□三月廿一日 」 155×37×3 011
- (11) 「 いのくにあくたかはの住人  
三拾三所順礼聖一人  
宝徳四年三月四日 」 208×43×2 011\*
- (12) 「 宝徳四年三月四日  
三十三所巡礼只一人如祐」 205×47×2 011
- (13) 「 みらくに□□の 宝徳四年  
卅三所巡礼只一人  
〔#4,5〕なかよし 三月十□日 」 178×37×3 011
- (14) 「 □  
西国三十三所巡礼×  
た□□□ (140)×(33)×2 081
- (15) 「 三十三所巡礼三人□〔はくに〕  
〔はやし〕〔#4,5〕」 181×28×2 011
- (16) 「 宝徳二年 僧一人  
西国卅三所巡礼遠江国□住人  
三月廿一日 □11人 (155)×36×2 019
- (17) 「 □〔摩ガ〕 宝徳二年  
第三卅三所順礼聖五人敬白  
國 四月 一日 」 220×45×3 011
- (18) 「 美濃州米田嶋住僧  
西国三十三所順礼僧只四人  
宝徳□□ 二九日 」 222×39×4 011\*
- (19) 「 □□□うの□□□  
卅三所しゆんれい一人  
ばくくく三月十八日 」 227×55×2 011

